

かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

June

2026, 6

生成AIが促す
公共組織のアップデート



INDEX

Featured Topics

1. 生成AI活用事例をお客様限定イベントで共有
第5回霞が関事例研究会開催
2. AIとセキュリティで加速する自治体DX
都道府県CIOフォーラム@沖縄 出展レポート（2026年2月2日-3日）
3. 日本社会を守る官民連携の最前線へ
重要インフラ組織向けセキュリティラウンドテーブルを初開催(3月11日)
4. 生成AI事業化支援プログラム 製薬業界向けイベント
～製薬業界の未来をAIとともに描く～
5. 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社 様が
進めた「Microsoft 365 Copilot」全役職員展開！
6. 農林中央金庫が拓く「生成AI × 市民開発」
— 『攻め』で挑む全社変革 —

News

1. 2026.3 第17/18回CGウェビナー開催
AI Tour Tokyo 2026 Recap
2. 社会重要インフラ 生成AIラウンドテーブル2026
AI時代の「業務変革」と「組織のアップデート」を考える

生成AI活用事例をお客様限定イベントで共有

第5回霞が関事例研究会開催

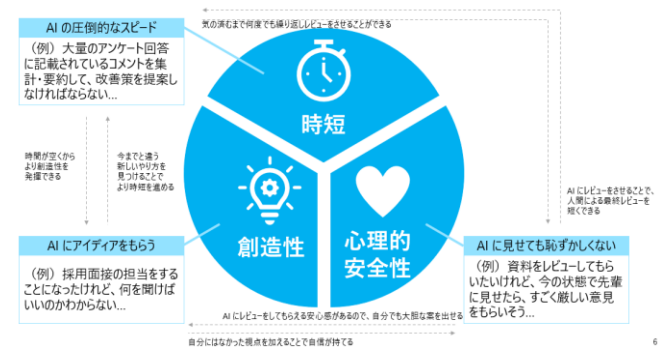
官公庁本部では行政機関様、独立行政法人様に限定してご参加いただける霞が関事例研究会を定期開催しています。2026年5月19日に生成AIサービスである Microsoft 365 Copilot や Copilot Chat、Copilot Studio の活用をテーマとして第5回霞が関事例研究会を開催し、弊社品川オフィスとオンラインの合計200名以上の方にご参加いただきました。また今回初めての取り組みとして現地参加いただいた方向けに登壇者との座談会を企画してより具体的な内容の共有や質疑の時間をご用意しました。

本記事では今回のイベントのテーマであった Microsoft 365 Copilot についてご紹介いたします。

行政機関で活用が進む Microsoft 365 Copilot 全体像

行政機関における生成AI活用は本格化しており、Microsoft 365 Copilot の導入・検証が広がっています。Work IQにより業務文脈を理解した回答作成を行い、Officeアプリとの連携やAI エージェント機能の活用により、業務の高度化や自動化をご支援します。また業務効率化に加え、創造性向上や心理的安全性といった効果も期待できます。

時短だけではなく、生成 AI 導入による効果

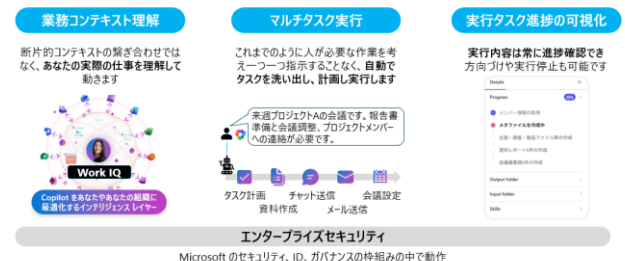


Microsoft 365 Copilot 最新機能ご紹介

Copilot の新機能として、複雑な業務を分解し自律的に実行する Copilot Cowork を発表しております。タスク単位の支援から業務全体を任せるAIという位置づけになります。またリサーチツールエージェントにおいては新しいマルチモデル機能を搭載し、複雑な調査をより高精度・高品質に行えるよう進化しました。Notebookによる業務データ活用と文書生成も強化され、SharePoint サイト上の業務データを参照、Notebookに追加した情報からOffice 文書の作成が可能になり、これまで以上に業務にAI活用するシナリオの広がりをご期待いただけます。

Copilot Cowork の特長

Anthropic とのパートナーシップによるClaude クラスのエージェント機能をMicrosoft 365 のワークフローに統合し、Work IQにより業務コンテキストを理解してタスクを計画し、複数の仕事を自動的に実行します



ご参考

[Copilot Cowork: A new way of getting work done | Microsoft 365 Blog](#)



AIとセキュリティで加速する自治体DX

都道府県CIOフォーラム@沖縄 出展レポート（2026年2月2日-3日）

都道府県CIOフォーラムは、各都道府県のCIOや情報政策責任者が一堂に会し、自治体DXやIT戦略、セキュリティ、AI活用などについて講演やディスカッションを通じて知見を共有する場です。2026年2月、第23回目のフォーラムが沖縄で開催され、日本マイクロソフトは協賛企業として出展を致しました。今回は、クラウドサービスや生成AIの活用、ならびにセキュリティ対策について活発な議論が交わされました。当社も登壇機会をいただき、Microsoft 365 Copilot やセキュリティソリューションを通じた自治体DXの具体的な推進策を紹介しました。

AI活用とセキュリティの重要性

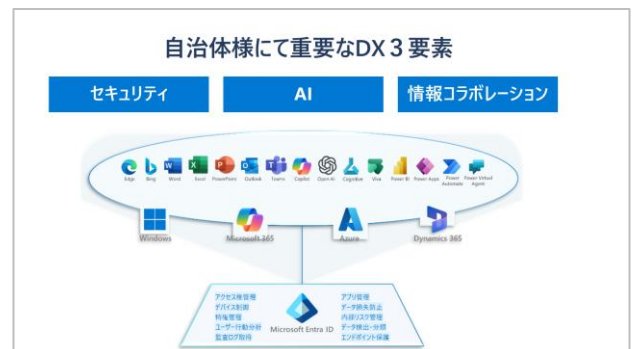
日本マイクロソフトは、自治体DXにおける三つの重要要素として「セキュリティ」「AI」「情報コラボレーション」を提示。AIを活用したサイバーセキュリティ対応の実例として、世界的海運会社へのランサムウェア攻撃をわずか2分以内に阻止した事例を紹介。1日100兆のシグナル分析から得られる脅威インテリジェンスを活用した動的モニタリングにより、モダンなIT環境でのビジネスレジリエンス実現の具体策を示しました。

自治体現場でのAI活用の浸透

参加者同士のディスカッションでは、生成AIの定量的効果が多数報告されました。茨城県では年間約13万時間の業務削減、神奈川県では約5.9万時間の削減見込み、愛知県では月間17万回以上の利用実績が報告されました。宮崎県は「職員全員が生成AIを使うべき」との方針のもと、50%以上の職員が日常的に活用しているなど、生成AIが「使用するか否か」というフェーズではなく、「どのように活用するか」というフェーズに移行し、生産性向上へ寄与している様子が伺えました。さらに今後は、住民サービスへの活用や付加価値向上への活用が期待されています。



日本マイクロソフト自治体戦略本部 副本部長 河野より自治体DXにおける重要な3要素や、ランサムウェア攻撃への対応事例を紹介しました。



自治体DXにおける重要な3要素として、情報コラボレーション、AI、そして当社が強みとするセキュリティを挙げて解説しました。



会場・オンライン含めて全都道府県から174名が参加し、活発な意見交換が行われました。

日本社会を守る官民連携の最前線へ

重要インフラ組織向けセキュリティラウンドテーブルを初開催(3月11日)

政府関係組織および金融、エネルギー、重工等の基幹企業が出席した本ラウンドテーブルでは、重要インフラを取り巻くサイバー脅威の最新動向、ウクライナにおけるサイバーセキュリティ強化事例、またAIを活用したセキュリティ機能高度化および官民連携の重要性について議論が行われ、社会基盤のレジリエンス向上と継続的な協力体制強化に向けた官民の積極的な意見交換の機会となりました。マイクロソフトでは、本議論を踏まえ、官民連携をさらに深化させるとともに、重要インフラ分野におけるサイバーセキュリティ強化への取り組みを継続してまいります。また、本会合を契機として、官民の知見を結集する継続的な対話の場を創出し、より安全で信頼性の高いデジタル社会の実現に貢献していきます。

ウクライナに学ぶ官民連携の重要性

実例として、継続的な国家レベルのサイバー攻撃に対し、政府単独では対応が困難であり、民間企業との緊密な官民連携が極めて重要である点が、弊社ウクライナ担当者より共有されました。弊社は、クラウド基盤の迅速な移行支援や高度な脅威インテリジェンスの提供、インシデント対応の高度化を通じて攻撃影響の最小化に貢献し、サイバーディフェンスと対応速度を飛躍的に向上させ、国家全体のレジリエンス強化の実現を支援しております。



<ウクライナへの支援内容紹介資料>

継続的な議論の場の必要性

本会合では、官民連携を実効性あるものとするための「継続的な対話の場」の必要性が強調されました。特に、政府と民間で保有する情報の非対称性や制度面の違いを踏まえ、相互理解を深める仕組みづくりが課題として挙げられました。また、機密情報の共有に対する信頼性確保やルール整備、迅速性と正確性のバランスを取った情報交換の在り方も重要な論点となっております。こうした基盤整備が、今後の日本社会全体に対する高度なサイバー脅威への対応力を左右するという理解が官民双方に認識されました。



<会合の様子>

官民組織から16名のご参加頂きました

生成AI事業化支援プログラム 製薬業界向けイベント ～製薬業界の未来をAIとともに描く～

2026年2月、日本マイクロソフト品川本社にて、製薬・ヘルスケア業界向けにAIEージェント活用をテーマとしたセミナーが開催されました。製薬業界のコスト増やデータ分断などの課題を背景に業界トレンドやAI戦略、導入事例、パートナーによるソリューションが紹介され、AIを活用した業務改革や組織変革への関心の高さが示されました。

「ヘルスケア×生成AIの展望」

生成AI分野で豊富な知見を持つボストンコンサルティンググループ合同会社様より、製薬業界のバリューチェーン全体を対象とした活用シナリオや、有望な領域の分析が示されました。さらに、同社が開発したソリューションのデモも示しつつ、コマーシャル・開発・製造の各領域における実際の生成AI活用事例とそれによってもたらされた成果等もお話いただきました。



実際の導入事例の成果を提示・共有されるボストンコンサルティンググループ様講演

「マイクロソフトのグローバルでのライフサイエンス領域における取り組み」

弊社より製薬業界における支援実績と生成AI領域での知見をもとに、生成AIの進展と価値創出の考え方が紹介されました。特にR&D領域に特化した新たなAIEージェントプラットフォーム、Microsoft Discoveryのご紹介をいたしました。



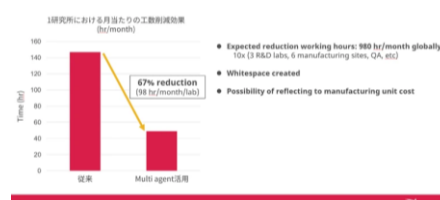
マイクロソフトのグローバルでのライフサイエンス領域における取り組みを紹介する弊社セッション

AIエージェント導入企業様による事例紹介

「逸脱処理プロセスの効率化に向けたマルチエージェントの有効性検証」

アステラス製薬株式会社様にて、「製品の生産中に発生したトラブルに対して、対応案を提案する(逸脱対応)」を選定され、PoCを実施されました。要件として、逸脱に対する適切な対応の提示、網羅性の担保等を掲げられた中で、複数の専門的な役割を担うエージェント群を有機的に連携させるマルチエージェントが採用されました。結果、一定の前提条件のもとで試算した場合、1研究所あたり月当たり最大で約67%、約980時間程度の工数削減が期待されることが示唆されました。

期待効果：逸脱処理対応工数の削減



アステラス製薬(株)様よりAIEージェントを導入して業務改革により工数削減の期待が示唆

「安全な生成AI基盤×業務AIアプリ量産による現場課題の高速解決」

株式会社大塚製薬工場様より「安全な生成AI基盤の構築」と「業務AIアプリの内製・量産」による現場課題の高速解決について、具体的な事例を交えて紹介されました。具体的な事例として、営業支援AIEージェント「epico」等が紹介されました。epicoでは、社内外に散在する営業・学術・市場データを統合し、マルチエージェントにより調査・分析・回答を自律的に実行して、MRの情報収集時間を削減し、提案力向上を実現しています。

生成AIプラットフォーム全体像



(株)大塚製薬工場様より安全な生成AI基盤×業務AIアプリ量産による現場改革の紹介

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社 様が 進めた「Microsoft 365 Copilot」全役職員展開！

～ 資産運用の現場から進める、AI ネイティブな働き方への転換 ～

農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（以下、NZAM）様では、資産運用業務における職員の生産性向上と AI ネイティブな働き方への転換を目的に、Microsoft 365 Copilot を全職員へ展開する取り組みを進めています。1985 年設立、役職員 約 305 名、株主は農林中央金庫 66.66%／全国共済農業協同組合連合会 33.34%（2026年4月1日現在）。投資運用業として公募投信・ETF・私募投信を運用される、JAグループの中核アセットマネジメント会社です。

全社的な生成 AI 活用推進方針

NZAM様は「生成 AI を NZAM のインフラに！」を掲げ、社内浸透と基盤整備を推進。業務適用が広がり始めてます。

< 今年度以降は次の 3 アプローチで推進 >

- ① 業務適用の段階的拡大（Copilot Studio 等による開発）
- ② 全社員の AI 利用高度化（M365 Copilot 全職員展開）
- ③ ガバナンス・AI リテラシー向上（＊1）

活用リテラシーの定着と質の向上を通じ、お客さまへの更なる価値提供に繋げていく方針です。



農林中金全共連アセットマネジメント(株)
業務開発部のみなさま

M365 Copilot 全役職員導入の背景

Copilot導入検討にあたり、各部門から代表 約 50 名・約 3 ヶ月の先行検証で作業時間短縮と成果物品質向上を確認し、継続利用意向は 90% 以上に達するとともに「社内情報検索の効率化」「メール・議事録作成の時間削減」等の定性的な効果も確認。ROI 算出でも費用対効果が十分と判断し、全役職員への展開を決定しました。



業務開発部のみなさま、左から
村上様、岡谷様、星野様、今嶋様、古川様、井澤様

主な活用例…M365 Copilot, Copilot Studio含む

- ・社内情報検索・メール・議事録の効率化
 - ・契約書等の複数ドキュメントの整合性チェック
 - ・規定検索、人事部QAアシスタント（SharePoint内の規程書を根拠付きで応答）
 - ・ブランディング制作物サポート（文章、イラスト等のアイデア出し）
 - ・リサーチ・要約、レポートまとめ（マーケット動向、規制動向、他社動向）
 - ・VBA、Python、SQLなどユーザ部門のコーディング支援
 - ・よろず相談（業務の進め方のアイデアや次の進め方のサジェスト）
- ＊「NZAMでは、生成AI利用ガイドラインを定めて生成AIの適切な利用を徹底しています」（NZAM様コメント）

業界連動と今後の展望

（＊1）2026 年 4 月 27 日、NZAM 様はニッセイアセットマネジメント(株)／東京海上アセットマネジメント(株)／SOMPO アセットマネジメント(株)との 4 社共同で、生成 AI 研修教材「AI ユースケーススタディ for アセマネ」（全 6 コース／(株)ナウキャスト 制作支援）を発表。投資運用業界横断で AI リテラシーを底上げする流れと、② M365 Copilot 全役職員展開は親和性の高い取り組みです。今後は ①「業務適用の段階的拡大」として Copilot Studio による業務特化型 AI エージェントの内製化も視野に、AI ネイティブな働き方への転換を加速。運用品質の向上とお客さまへの付加価値提供を後押しし、資産運用業界における新しい働き方のモデルケースとなることが期待されます。



農林中金全共連アセットマネジメント

<https://www.ja-asset.co.jp/>



農林中央金庫が拓く「生成AI × 市民開発」 — 『攻め』で挑む全社変革 —

～新設「ビジネス共創部」から見える人材育成・ガバナンス・全社展開の現在地～

農林中央金庫（1923年設立／本店：東京、2025年9月30日時点の職員数3,380名）は、預金・融資・市場運用を通じて第一次産業の発展を支える日本有数の機関投資家です。同庫は「全職員による生成AI活用」と「市民開発」を掲げ、4月新設の「ビジネス共創部」を中核に、人材育成とガバナンス整備の両輪で全社的な生成AI活用基盤の構築を進めています。

取組みの背景：「どう作るか」から「何を作るか」へ

現在、開発の短期化・自動化が進む中で議論の重心は「どう作るか（How）」から「何を作るか（What）」へと移行。ビジネスの知識と知見を生成AIによる業務変革の起点として位置付け直しています。今回、マイクロソフトのFastTrackによる Microsoft 365 Copilot（無償／有償ライセンス）ワークショップを活用し、管理者・利用者向けにそれぞれの立場に必要なAIトレーニングを実施しました。活発なディスカッションを経てAI活用の解像度が向上しています。取組み自体は昨年度からの継続です。



農林中央金庫
ビジネス共創部のみなさん

ボトムアップ × トップダウンの両輪

AI活用の強力な推進体制の必要性は現場発のボトムアップから、組織改編は半場雄二 理事常務執行役員・ITデジタル統括責任者（CI & DO）号令によるトップダウンとの両輪が噛み合い、今年4月にIT統括部から独立する形で約60名規模で「ビジネス共創部」として発足しました。



ビジネス共創部
（左から）田中祥人 部長代理
羽賀崇裕 様
鈴木悠真 様
小杉拓磨 様

カルチャー醸成から業務変革へ

<今期の中心的取組み>

- ・ AIをビジネス活用するカルチャー醸成
- ・ AIリテラシー向上
- ・ AIエージェント開発の基盤整備
- ・ 投資／融資領域でのAIエージェント開発・利用開始
- ・ AIガバナンスの整備（"野良エージェント"を放置しない）
- ・ 市民開発定着のためにアンバサダー制度を新設

<ビジョン>

- ・ カルチャー：
"AIで事業をどう変えるか" や "事業の将来像"をビジネス部門と一緒に考え、一緒に実現することで職員がAIの重要性を理解し、AI活用に前向きに取り組むカルチャーを醸成する
- ・ エージェント活用領域：
 - ・ 投資／融資／収益構造改善／開発自動化
 - ・ 今まで職員数というキャップで手を出せなかった未踏領域へのビジネス拡張
- ・ 人材育成とガバナンス整備の両輪：
 - ・ 段階的に展開しつつ、最終的に全職員がエージェントを作成できる状態
 - ・ 職員向け教育、全職員のAIリテラシー強化
 - ・ "使わせない"から"安全に使いこなす"へ、ガバナンスはブレーキではなくアクセルを支える存在
- ・ 開発規模別の三層体制：
 - ・ 大規模：暗黙知の組織知化・独自LLM等、難易度の高いエージェント、外部AIベンダーの協力
 - ・ 中規模：汎用性の高いエージェント、ビジネス共創部による中央集権的な内製開発
 - ・ 小規模：個人の業務改善が中心、職員自身が行う市民開発

ビジネス共創部の挑戦：トップランナーを目指して

「技術革新スピードへの追従は大変だが、Microsoft 365 Copilot / Copilot Studio や複数のAIツール・バイブコーディングなど先進領域に触れる楽しさが大きい」（鈴木 様）、「他行追従の守りの姿勢から、攻めへの転換で企業の付加価値・職員の市場価値向上を実現するトップランナーへ」（田中部長代理、羽賀 様）。ビジネス共創部の言葉に、農林中央金庫様の変革への手応えが滲んでいます。



ご参考 農林中央金庫（英文名称：The Norinchukin Bank） <https://www.nochubank.or.jp/>

News
1

2026.3 第17/18回CGウェビナー開催 AI Tour Tokyo 2026 Recap

官公庁本部では官公庁/独立行政法人のお客様、それらのお客様を担当されているパートナー様向けにウェビナー形式で情報提供を行っております。4月はMicrosoft AI Tour Tokyo 2026 Recap ～ 公共領域のAI活用、フィジカルAIの動向 ～ というテーマで実施しました。次回2026年夏ごろにMicrosoft BuildのRecapウェビナーを行う予定です。ご関心ある方はご案内お送りさせていただきたくお気軽に弊社社員にお声がけください。

3/24 Microsoft AI Tour Tokyo

3/24（火）に東京ビッグサイトで開催された約4,200名の方が来場し、AI 戦略を推進する業務担当者、および技術者の方にご参加いただいた
ブレイクアウトセッション36、ワークショップ13、ライトニングトーク44

- ・ AI を活用して実際の課題をどのように解決しているか
- ・ 最新の Microsoft ツールをハンズオンで体験
- ・ プロダクトエキスパートや他の参加者の皆様との交流
- ・ AI がお客様にもたらす可能性を具体的に探索



News
2

社会重要インフラ 生成AIラウンドテーブル2026 AI 時代の「業務変革」と 「組織のアップデート」を考える

3月16日、品川本社にて「社会重要インフラ - Critical Infrastructure- ラウンドテーブル 生成AI の取り組み 2026」を開催しました。今年で2回目の開催となります。国内の重要インフラを支える企業・団体の経営層や DX 推進担当者にお集まりいただき、生成 AI を『使う前提』で考え、各社がすべきことや課題について、活発な意見交換が行われました。



MS 講演では執行役員カスタマーサービス&サポート本部長 金起成が「Customer Zero」として AI による社内変革の実例を紹介。

編集後記

日本マイクロソフト株式会社
執行役員 常務 パブリックセクター事業本部長
木村 靖



本号では、公共分野、金融、ヘルスケア、重要インフラといった社会基盤を支える領域における生成AI活用の最前線をご紹介しました。

ここ一年で世界のAIを取り巻く環境は大きく変化し、従来の文章生成や情報検索の高度化にとどまらず、業務を理解し、判断し、実行まで担う「AIエージェント」へと進化しつつあります。AIは単なる支援ツールから、業務の一部を担う存在へと役割を変え始めているのです。

一方で、その進展は新たな問いも突きつけています。セキュリティやガバナンスの確保、誤情報への対応、責任の所在、さらにはAIを扱う人材の育成といった課題は、技術の進化と並行して解決すべき重要なテーマとなっています。特に公共分野においては、市民の信頼を前提とした慎重かつ持続的な導入が求められ、単なる効率化を超えた「社会的価値の創出」が強く意識され始めています。本号でご紹介した事例から明らかなのは、AI導入の成否を分けるのは最新技術の有無ではなく、「現場と経営が同じ目的を共有しているか」、そして「小さく試しながら学び続けているか」という点にあるということです。

CopilotやAIエージェントを活用した業務変革、自治体DXの推進、重要インフラを守るためのセキュリティ強化など、いずれの取り組みも、明確な課題意識と継続的な改善の積み重ねによって実現されています。また、世界の潮流として見逃せないのが「人とAIの協働モデル」の深化です。AIがすべてを代替するのではなく、人の判断力や創造性を引き出すパートナーとして設計されることで、より価値の高い業務へと人材をシフトする動きが加速しています。市民開発の広がりやリテラシー向上の取り組みも含め、組織全体でAIを使いこなす力が、これからの競争力を左右するといえるでしょう。

「AIを導入するかどうか」ではなく、「どのように活用し、価値へと転換するか」、その問いに向き合うことが、今まさに求められています。本誌「かけはし」が、皆さまの現場における一步を後押しし、新たな実践につながるヒントとなれば幸いです。

これからも私たちは、テクノロジーと現場を結び、未来への確かな一步を支える“懸け橋”として、最新の知見と実践事例をお届けしてまいります。





表紙・裏表紙画像はCopilotを使用して作成しております。
「雨上がりの朝、写実的、クローズアップして風景を写す」
のキーワードを入れています。

かけはし

テクノロジーでつながる、よりよい未来への懸け橋

